

(発言者について)
「副委員長、〇〇委員」
は、「委員」に全て変更

第1回 桐生市総合戦略推進委員会 議事録

1. 日 時 平成28年7月14日(木) 午後6時30分～午後8時00分

2. 場 所 桐生市市民文化会館 4階 第1会議研修室

3. 出席者

【委員】	委員長：桐生市総合計画審議会会長職経験者	宝田 恭之
	副委員長：桐生商工会議所 会頭	山口 正夫
	委員：新田みどり農業協同組合 副組合長	藤生 英喜
	桐生広域森林組合 総括課長	栗原 和人
	桐生織物協同組合 共販部係長	品川 悦子
	群馬県桐生みどり振興局 局長(代理 総務振興係長)	山口 雅男
	群馬大学理工学部 教授	板橋 英之
	桐生商業高等学校 教諭 教務主任	北風 久子
	桐生信用金庫 常務理事	横倉 浩治
	足利銀行 桐生支店長	八田 欣弥
	群馬銀行 桐生支店長	荻野 克徳
	桐生公共職業安定所 所長	新井 保敬
	桐生タイムス 事業推進室長	小澤 義明
	桐生市区長連絡協議会 第3区長	茂木 新司
	きりゅう市民活動推進ネットワーク 代表	近藤 圭子
	NPO法人キッズバレイ 代表理事	星野 麻実
	桐生市医師会 理事	鈴木 康郎
	桐生市婦人団体連絡協議会 会員	田中 洋子
	桐生市環境審議会 会長	赤岩 英夫
(欠席者)	桐生商店連盟協同組合 副理事長	茂木 理亨
	桐生市社会福祉協議会 常務理事	高松 富雄
	桐生市PTA連絡協議会 副会長	増山 大祐
	桐生青年会議所 理事長	坪井 良樹
	2015年の公共交通をつくる会 会長	佐羽 宏之
【桐生市】	桐生市長	亀山 豊文
	副市長	鳥井 英雄
(事務局)	桐生市総合政策部長	金井 利雄
	桐生市総合政策部企画課長	和佐田 直樹
	桐生市総合政策部人口対策室室長	六本木 和敏
	桐生市総合政策部人口対策室主査	増山 隆幸

【傍聴者】 1名

【桐生市】 1名

4. 議 題

1 開会

2 市長挨拶

3 自己紹介

4 議題

(1) これまでの経緯と本委員会の役割について

(2) 桐生市まち・ひと・しごと創生総合戦略の推進について

・地域活性化・地域住民生活等緊急支援交付金（地方創生先行型）事業

・地方創生加速化交付金事業

・平成28年度主な総合戦略事業（重点施策等）

5 その他

6 閉会

5. 議事の概要

（開始：午後6時30分）

1 開会

<和佐田企画課長>

本日は、5名の委員より御欠席の連絡をいただいているが、本委員会設置要綱で定める過半数に達し委員会が成立していることを報告する。

2 市長挨拶

<亀山市長>

皆様、こんばんは。今日は、第1回の桐生市総合戦略推進委員会ということで、大変お忙しい中、委員長や副委員長をはじめ、委員の皆様方には御出席をいただき、本当にありがたく思っている。また、新しく委員に就任をされた皆様には、よろしくお願ひしたいと思う。それから、昨年度から引き続き委員を引き受けていただいた皆様方には、また今年度もよろしくお願ひしたいと思う。

さて、桐生市は県内12市の中で人口減少率が高い状況であるが、この問題に迅速に対応するために、桐生市新生総合計画後期基本計画において、人口減少対策を最重要課題と位置付け、平成26年度から様々な対策に取り組んできたところである。こうした中、地方から日本を創生し、人口減少を克服しようとする「まち・ひと・しごと創生」に関する国の動きを背景として、昨年度は、皆様方のお力添えをいただき、桐生市人口ビジョン及び桐生市まち・ひと・しごと創生総合戦略を策定できたことに対して、重ねて心から御礼を申し上げる次第である。

平成28年度は、総合戦略等の“策定”の段階から“推進”の段階へと移行し、“桐生ならではの”地方創生をスタートさせる年であると考えている。そのため、桐生市まち・ひと・しごと創生総合戦略に掲げる施策や事業を積極的に推進するとともに、国の動きに先駆けて実施している人口減少対策のうち実効性の高い事業について、効率的かつ複合的に取り組んでいきたいと考えている。委員の皆様には、総合戦略の推進に向け、昨年度同様、それぞれの知見を生かした様々な御意見や御提言を下さるようお願い申し上げます。昨年度に引き続き、何と云っても桐生市の最重要課題である人口減少対策に対して、この総合戦略で、これからも桐生の元気というものをつくっていききたいと思うので、どうか委員の皆様方には忌憚のない御意見をいただき、桐生の発展のためにお力を貸していただけるよう重ねてお願ひし、挨拶とさせていただきます。

3 自己紹介

- 委員長から右周りに、各委員より自己紹介を行う。
- 委員の自己紹介後、事務局の自己紹介を行う。

4 議題

委員長が議長となり、議事を進行。

<委員長挨拶>

皆様の御協力で、充実した議事を進行させていただきたいと思っているので、よろしくお願いしたい。

本日の議題は、次第のとおり2つあるが、先程事務局と話をしたが、今日は現状の把握ということが主となるということで、特にここで決定する事項などはないので、事務局から現状の報告をしてもらい、それに対して、皆様の忌憚のない御意見をいただく形で進めていきたいと思うので、よろしくお願いしたい。

それでは議題の(1)これまでの経緯と本委員会の役割について、事務局から説明をお願いしたい。

(1) これまでの経緯と本委員会の役割について

<事務局より説明>

事務局より、資料2「～まち・ひと・しごと創生関連の取組の経緯～」、資料3「平成28年度桐生市総合戦略推進委員会の役割等について」説明。

<委員>

25年度から人口減少対策を最重要課題として先行して進めているということで、そういう中で、中間、評価というところには至っていないわけだが、取り組みがどういう状況か、中間的な意味でお知らせできないか。

<事務局>

実際、人口減少が止まっているのかと言われると、平成26年からの実施で、まだ27年度、28年度の3カ年ということで、目に見えた効果というのはなかなか難しいと思っているが、ただ、この後の説明に出てくるが、例えば、住宅取得応援事業など最重要課題、桐生市の人口減少対策の事業ということで取り組んだ事業については、かなりの成果が上がっているということもあるので、徐々にではあるが効果が出ていると思っている。

<委員>

今日、桐生高校で協議会があり出席したが、話題になったのが桐高・桐女の統合である。共学高で、ハイレベルな進学校を目指すということで、現在桐生の優秀な生徒が前橋や太田に行っており、それを止めたいという話があった。それには、新しい何か市の政策が必要ではないかという意見が出たが、例えば、この2ページ目には一切ないが、教育の柱の一つにこれをやったらいいのではないかということ、どんどん出していいというふうな理解でよろしいか。

<事務局>

載せていないのは、まだ実施の予定がないということであるが、決定したのがまだ最近ということもあるので、そういったことも踏まえて、施策として推進していくことは十分可能と考えている。

<亀山市長>

ちょっと補足をすると、今度、先生には教育委員に就任していただいたわけであるが、学歴を求める人達というのは、特に親御さんが桐生高校よりも前橋高校の方がいいという考え方で、高学歴のいい大学に入りたいという理由で行ってしまうことがあるため特に明記していないが、教育委員会や中学校の進路指導などで、いろいろやっていく必要があるのかなと思う。ただ、あまりこれを極端に明記するという事は、他から来ないのかということにもなるので、上手に進路指導していかなければならないと思っているので、教育委員会と連携をとりながら進めていきたいと思う。

(2) 桐生市まち・ひと・しごと創生総合戦略の推進について

- ・地域活性化・地域住民生活等緊急支援交付金（地方創生先行型）事業
- ・地方創生加速化交付金事業
- ・平成28年度主な総合戦略事業

<事務局説明>

事務局より、資料4「地域活性化・地域住民生活等緊急支援交付金（地方創生先行型）に係る事業実施結果報告」、資料5「地方創生加速化交付金を活用した事業について」、資料6「総合戦略における現在の取組状況等について

<委員>

資料6の3枚目、裏側の(3)特色ある教育の充実。この①にある総合教育センターの設置・運営事業。これを読んでみると親に至るまでとあるが、その後を読んでみると生涯学習の機能を併せ持った教育センターということで、生涯学習もやるのであれば敷居を高くしないで、例えば、前橋にある教育プラザや太田の教育行政センター又は学習文化センターみたいに、誰もが行けるような教育センターにしてほしい。おそらく昭和跡地になると思うが、せっかく生涯学習の機能を併せ持つのであれば、それこそ親までではなく、もっと幅広い人が利用できるようなセンターになればいいと思った。もう一点は、カラー版の“WA”システムだが、ちょっとよくわからないが、例えば、左の上の「一次産業の活性化」に農業のことが書かれているが、先程の説明では、だいたひ林業のことも触れている。それはどこに入るのか。あと、ちょっと重箱の隅をつつくようであるが、寺子屋の「子」の部分が、みんな「小」になっている。上の方に書かれている「産業、出会いシステム」のところや、下の「スマート寺子屋・高齢者の活躍」のところでも2か所。そして、「災害警告ヘルプ」のところでも「小」になっており、先程の説明で好評でしたというからには、もう少し公表する時にはきちんと「小」を「子」に直してください。また、真ん中の一番下にある「高齢者が健康でいられるシステム」の一番下の「利用シーン」だが、せっかく高齢者と書いてあるのに、そこには老人と書かれている。これは、「高齢者のある家庭」と書くべきである。

<事務局>

それについては、真摯に受け止め対応させていただく。

<委員>

私も同じ質問であるが、特色のある教育の中で総合教育センターの設置を検討中とあるが、これは、やり方によっては非常に桐生の特色を出す大きなプロジェクトになるかと思う。そこでお尋ねしたいのが、どういう組織で誰が中心になって検討しているのかということをお聞きしたい。

< 亀山市長 >

総合教育センターについて、今、お二人から御質問があったが、これは生涯学習も含めてという部分で、今のところ昭和小学校の跡地が有力になっており、青少年センターや教育研究所も含めて子どもから先生方の教育まで、すべてを担うような総合教育センターにしていきたいと思っており、教育委員会で検討している。先程話が出たが、桐高・桐女の統合など話も多角的になってきたので、場所が昭和小学校の跡地になるかどうか不確定な部分もあり、これは早急にしなければならない施設であると思っているので、検討を早めたいと思う。

< 委員 >

今話にあった総合教育センターの関連であるが、先日、県の商工会議所で岐阜市へ行ったが、図書館を中心にしたコミュニティセンターのようなものを街なかにつくって、もちろん学生も大勢来ているが一般市民の方がかなり来て、図書館が交流をする場になっている。この間も、市の執行部の方たちといろいろ話をした中で、中央公民館や図書館は比較的新しいと思っていたが、雨漏りなどだいぶ痛んできていると聞いた。建て替えが必要だとすれば、単なる図書館ではなくて、こうしたものが参考になる。特に今、高校再編の話が出ているが、ちょうどその周辺に桐高や樹徳もあり、できれば南高校と西高校も今の不便なところではなくて、あの周辺に学校を集めて、その真ん中に教育センターの機能を持った図書館だとか市民の方のコミュニティセンターみたいな形にすれば、いろいろな場所にあるよりはノンストップ化が図られる。これから、お年寄りの行き場所が無くなる。夏の暑い日に、あそこに行って本をゆっくり読むというニーズも出てくるでしょうから、何か、そういったものを兼ねて建て替えをしたらいいのではないかと提案させていただく。

< 亀山市長 >

委員の話は先日伺っているが、先程の総合教育センターの話は、教員の研修などいろいろやらなければならない部分があるので、今の御意見も踏まえながら検討させていただきたい。

< 委員 >

資料4の3番目にある自主防災事業。今回、ハザードマップを作成したと書いてある。これは、警戒区域である48自治会に配布したと書いてあるが、ハザードマップに興味のある方がいた場合には、配布するような数があるのかどうか。それともう1点、いろいろ進捗状況を話していただいたが、これ全部は自分達でもなかなか興味・関心がどこまで持てるのかというのがあるが、やはり関心のある内容であれば進捗状況を委員会だけではなく、随時企画課の方に行けば教えてもらえるのか。または、いろいろな分野で各部署がかかっていると思うが、窓口として企画課の方へ行くと話が聞けるのかどうかというところを教えてください。

< 事務局 >

こちらで全ての事業を所管し実施しているということではないので、持ちかえり、対応させていただきたいと思う。

< 委員 >

土砂災害警戒区域の所では、公民館の方で配布していると聞いているが、該当するハザードマップがある場所は崖崩れなどの危険があるところであるため、この辺の公民館では、災害が起こるという前提で作っていない。例えば、川内公民館や菱公民館にはあると聞いている。これは、毎戸配布ではなくて対象の地区のみで、危険がない地域の公民館には多分ハザードマップは置いてない。

<鳥井副市長>

極めて地域限定のハザードマップである。

<事務局>

27年度は、黒保根町の上田沢地区をモデルとし、黒保根地区や川内地区などを対象に交付金を利用して実施した。28年度は違う地区で、順次、土砂災害警戒区域を持つ地域を中心に進めていくと聞いている。

<委員>

桐生全域ではないということか。

<鳥井副市長>

土砂災害警戒区域という危ないと思われる区域が設定されており、その区域の方々が集まって、それぞれハザードマップを作っている。

<委員>

対象の公民館に行けば頂けるとのことか。

<事務局>

現在では、黒保根・川内・新里である。

それから、企画課にいらっしゃれば総論的な話はさせていただくが、細かな話になれば担当課に案内する場合があるかもしれない。

<委員>

私の関連しているところで少し質問するが、農林業の振興と成長産業化に向けた取り組みということであるが、計画と実績の把握の点でどうなっているのか。今、農協の関係で、新里においてはIターン・Uターンで農家の動きが活発になってきており、農協は融資の問題あるいは技術の指導などをやっているが、その辺を農業振興課がどのように掴んで連携しているのかということ伺いたい。新里では、若い人や転入希望者を含め、ナスの園芸を中心とした取り組みが毎年増えていると感じている。だから、それを把握して適切な対応をお願いしたい。

<鳥井副市長>

答えになるかわからないが、先程、現在の取り組み状況を説明したが、これは皆さんに策定していただいた総合戦略の中から総論的な内容にしないように、現時点では重点施策としてピックアップしたものを中心に手がけていくという状況にある。そんな中、地場産業の活性化あるいは農林業の振興と成長産業化に向けた取り組みの項目で、農業に関しては、農業後継者の育成事業や6次産業化への支援を事業として掲げてはいるが、現時点では個別具体的に大きな動きにはなっていない。そうした中、今手がけようとしている部分に関しては、資料6にもあるとおり、森林・林業再生のための基盤整備。これをとにかく進めて、活用しきれていない森林資源を活用することにより、産業化の促進あるいは若者の雇用に努めようという状況になっており、まずは本腰を入れて、農林業に関しては林業の方から取り組んでいこうということで、いくつも同時並行的にできればいいが、どうしても総合戦略の中では使える財源等を加味すると何かに集中しながらまずは実績を残して、それから次ということで行かざるを得ないので、現時点では林業の再生のための基盤整備、これに

力を尽くそうというようなことで御理解をいただきたい。

<委員>

総合的な観点で、どこに重点を置くかということももちろんあると思うが、それぞれの現場がどういうふうに分たちが動いていくか。そういうことを続けることによって、将来的に人口対策ができるという側面もあるので、やはりそうした意味で目配りを是非お願いしたい。

<委員>

資料2に関して、非常に高く評価している。これは、うまくいくと桐生は劇的に変わる。実は先週、任天堂がアメリカでポケモンGOを配信したが、イメージはあれをもう少しコンパクトにしたものだが、さらにこれを進めるために、今年群馬大学に、おそらく自動運転の世界トップを走っている教諭が来たので自動運転と組み合わせると、またさらに劇的に新しいエンターテイメントというか、聖地になると思っている。ただ、法の縛りがあって、人が運転席に乗っている状態での自動運転が可能なレベル3まではできるが、人がいなくても自動運転ができるレベル4にしていかなければ、すでに走らせることができる車があるので、是非、走らせることができるような仕組みを桐生で進んでやっていただければと思う。

<委員長>

そんなわけで、群馬大学を活用して新しく進めていただきたいと思う。

その他、いいでしょうか。

予定は1時間位と思っていたが、活発な意見があって少し時間を超過したが、今話を伺って順調に進捗しているように思う。今の話もそうだが、これから企画してそれを展開するというものが、どこがどうやっているのだというところがちょっと見えないところがある。もう少し具体策を作る組織であるとか、そういったものをもう一度見直ししながら、重点施策なのでうまくそれを実行に移していくというところをもう少し考えてもいいかなという気がした。特に新しく始める事業、将来を見据えた計画的なまちづくりなど、あの辺は相当難しいと思う。その辺り、実行計画をどうやっていくかというところをもう少し我々も含めて相談をさせていただきながら進めていきたいと思うので、よろしくをお願いしたい。

5 その他

<事務局 和佐田企画課長>

○推進委員会の開催日程について説明。

次回の委員会は来年度の予算編成に合わせて、29年度事業をどうしていくかというような話にしたいと考えており、11月下旬から12月頃を想定している。決定次第、別途御連絡させていただきますので、よろしく願する。

○個人番号について、マイナンバーカード等を御持参いただいた方は、お帰りの際に事務局にお声かけをお願いします。

6 閉会

<和佐田企画課長>

(終了：午後8時)